

第499回 IBC番組審議会

1. 開催 日時 平成17年5月31日(火)午前11時

2. 開催 場所 デジタルセンター3F Dホール

3. 委員の出席 委員 総数 14名

出席委員数 10名

出席委員の氏名

委員長 石川 桂司

副委員長 藤原 正紀

委員 阿部 价男 小松 務 坂田 裕一

佐藤潤次郎 宮澤 徳雄 矢佐 俊幸

山崎 文子 吉沢 正則

欠席委員の氏名 熊谷志衣子 小苺米葉子 中原 志郎

米谷 春夫

会社側出席者

小西 隆昭 代表取締役社長

阿部 正樹 代表取締役専務

佐藤 敏行 常務取締役

川島 敬司 常務取締役編成局長

井上 隆志 取締役技術局長

柴田 継家 報道制作局長

角館 郁也 制作部専任部長

事務局

金谷 保彦 番組審議会事務局長

小笠原 勉 番組審議会事務局次長

4. 議題 『IBC特集 ゆずりはの詩～僕たちの豆腐プロジェクト』

5 . 議事の概要

< 委員の主な発言 >

- ・今は子供同士で遊んでいる風景を見かけないんですが、失われつつある文化や生活が残っていて良かった。
- ・ゆずりはの意味を子供たちに教えるために、自分の親をどう思うかという作文を書かせ読ませていたが、農山村地域の純朴な子供たちの様子がいきいきとしていた。
- ・豆腐作りをとおして、県北の小さな村の子供たちと、学校と地域の関係の大切さを教えてくれた。
- ・四季を通した山村の姿、豊かな伝統の食文化に接し、改めて農山村地域の豊かさを感じた。
- ・大豆の生産に合わせた四季折々の風景や、地域の人々の営み、子供たちの成長が描かれており、本物の食のあり方を考えさせられる番組だった。
- ・タイトルを前面に出しているが、神楽の伝承が入ってきて番組の基本的な訴求点が少しブレた感じがした。関連して、卒業式のシーンが出て来ますが、時間的にやや冗漫、冗長に流れたように思う。

< 社側 >

- ・もともとは土曜日の情報番組「じゃじゃじゃTV」の中のコーナーからスタートしました。地産地消という言葉があり、さらに「じゃじゃじゃTV」の中でもふるさとの再発見や子供たちとのふれあいも継続したい、ということもあって、候補の中で山形村戸呂町を選び1年間取組みました。取材の中で「ゆずりは」という道德の授業での詩がテーマ、キーワードになるのではないかとというディレクターの思いもあり、このタイトルになりました。戸呂町の風土、背景も1時間番組にするためには再度の取材が必要となり、神楽なども追加取材したわけです。「IBC特集」で作ることを目的として取材が始まった訳ではないために、ご指摘のように多少ブレが見られたかも知れません。
- ・江幡アナウンサーの位置付けですが、通常1時間のドキュメンタリーを作るとなればリポーターなしのケースの方が多いですが、「じゃじゃじゃTV」のコーナーで生まれたということで、本人のレポートで構成しました。逆に、カメラマンとディレクターだけで取材した時とは別な効果、いろんな表情が撮れるなど、プラスの部分もあったのではないかと思います。

- 7 . 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置
指摘された諸事項については、関連部署に伝え、改善すべき点は改善するよう指示した。
- 8 . 審議機関の答申又は意見の概要の公表
6月1日(水)の岩手日報に議事概要を掲載

6月9日(木)午後12時55分~午後1時のテレビ番組「番組審議会だより」で議事概要を放送した。

(ラジオは6月11日(土)午前5時50分~5時55分放送)

インターネットのIBCホームページに議事概要を記載した。

- 9 . その他・参考資料
 - ・第498回IBC番組審議会議事録
 - ・民間放送(1665号~1667号)
 - ・BPO報告(23)
 - ・放送番組委員会記録(2005.4月)
 - ・タイムテーブル